

Daily Report (号外)

～FOMCの結果について～

概要

米連邦準備制度理事会(FRB)は、4月27-28日の米連邦公開市場委員会(FOMC)において、フェデラルファンド金利(FF金利)の誘導目標を0～0.25%に据え置きました。声明文では景気の現状認識を上方修正した一方、注目されていた資産買入れの縮小に関する議論には、時期尚早との考えが示唆されました。

声明文では、足元の景況判断について、「ワクチンの進展と力強い政策支援の元、経済活動および雇用の指標は強まった」とし、前回声明から良好な景気指標を反映させる形で上方修正されました。また、インフレ率は「主に一時的な要因を反映して上昇した」とし、前回までの「2%を下回っている」から認識を変化させました。

経済見通しに関しても、「現行の公的医療危機は経済に重く押し掛かり続け、経済見通しのリスクは残存する」とし、前回の「経済見通しへの重大なリスクをもたらしている」との見通しと比較して前向きな文言に修正されています。

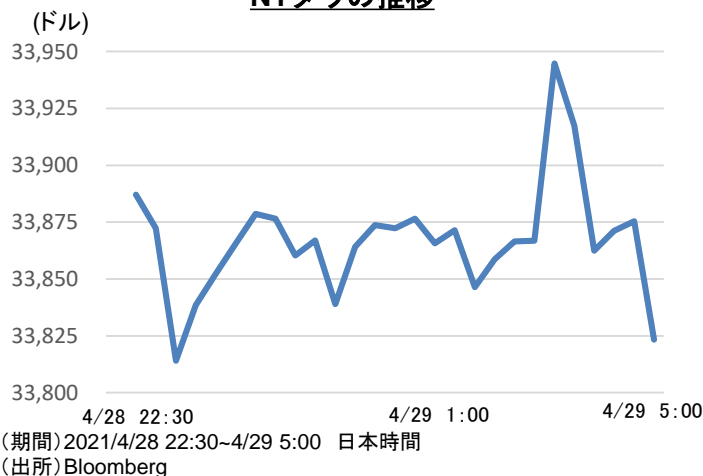
FOMC終了後のパウエル議長の会見では、足元のインフレ率の加速は一時的な事象であることを強調し、その上で、資産買入れの縮小時期に関しては「今はまだその時期にはない。その時期が到来すれば知らせる」とし、市場の早期テーパリング(量的金融緩和の段階的縮小)開始観測を牽制しました。

市場の反応

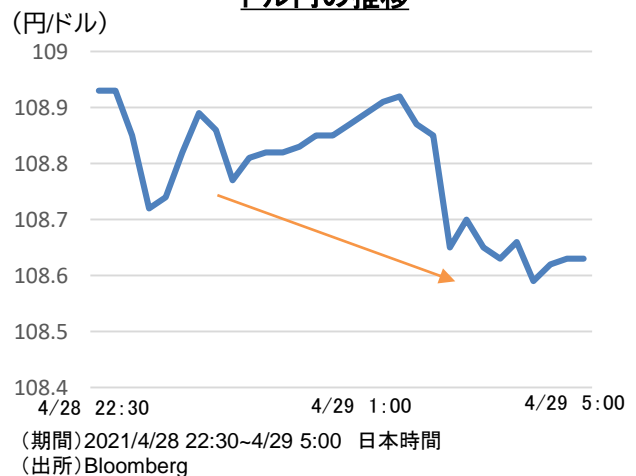
米国株式市場は、FOMCで景気の現状認識が上方修正されたことや緩和的な金融緩和政策が維持されたことが好材料となったものの、一部の米国企業業績が市場予想に届かなかったことが重荷となり、NYダウは前日比164.55ドル安の33,820.38ドルで終わりました。米国債券市場では、パウエルFRB議長の金融緩和縮小議論は時期尚早との発言が支えとなり、前日比0.01%低下の1.61%で終わりました。

外国為替市場は、パウエルFRB議長の金融緩和姿勢が維持されたことを受け、若干ドル安が進行しました。

NYダウの推移



ドル円の推移



評価及び今後の見通し

今回のFOMCは、パウエルFRB議長の金融緩和縮小に対する慎重姿勢を改めて確認する機会となりました。市場では足元まで良好な景気指標が続き、想定以上に景気回復が進展していることを背景に、今回のFOMCから本格的な金融緩和縮小に向けた議論が開始されるとの見方が台頭していました。これに対してパウエルFRB議長は会見で、「資産買入れの縮小を議論する段階ではない」とし、緩和を継続する姿勢を強調しました。

ただし、今回は資産買入れの縮小議論の開始が見送られたものの、先だってカナダの中央銀行が債券買入れ縮小を表明する等、一部の中央銀行は金融緩和の縮小に舵を切り始めています。米国では18歳以上の新型コロナウイルスワクチン接種率が5割を超え、7月中には経済正常化が見込まれる中、景気指標の改善も急速に進んでいます。そうした環境下、昨年春から継続する大規模な債券買入れ策の行方には投資家の注目が集まっています。

この点に関してパウエルFRB議長は、娯楽・宿泊部門や経済全体の雇用はコロナ禍前の水準を未だ大幅に下回っていると述べ、労働市場がFRBの基準においては緩和縮小のレベルに達していないとの見方を示しています。従って、当面は景気改善の進展をモニタリングする時間帯が続くと見えます。

過去には資産買入れ縮小を巡る当局者の発言が金利上昇をもたらしたこともあったため、FRBは景気指標をモニタリングしつつ、慎重に金融緩和縮小の開始に関するアナウンスを行うことで、市場に対してじっくりと価格に織り込む時間を与えた後、資産買入れ縮小に踏み切ると想定します。

(ご参考)今後の主要イベント

	日本	米国	欧州	その他
5月			月中:EU首脳会議	月中:イラン大統領選挙
6月	17-18日:金融政策決定会合	15-16日:FOMC	10日:ECB理事会	

出所: Bloomberg